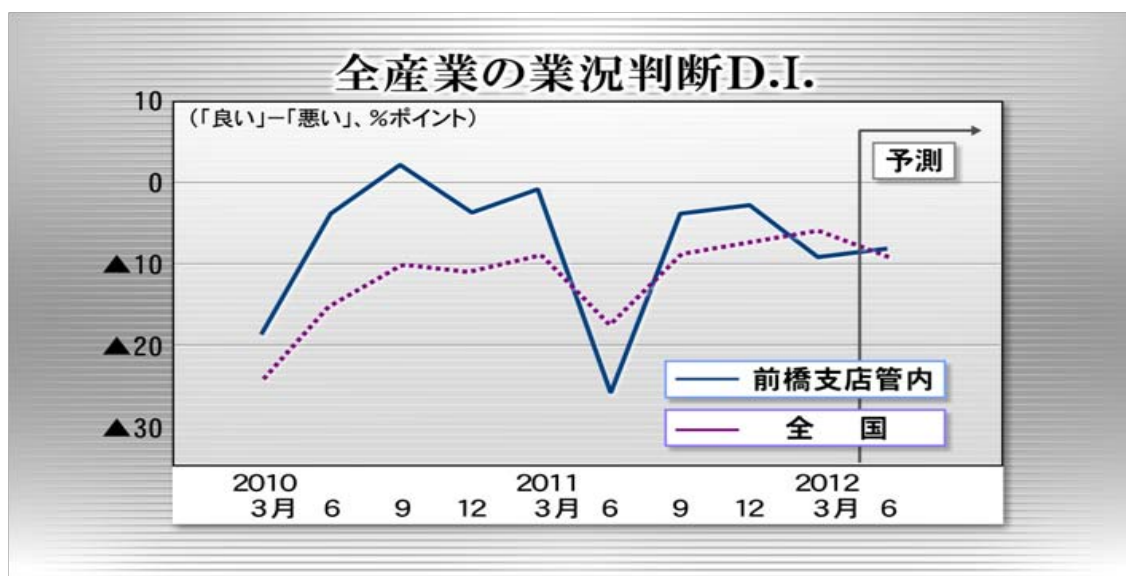


[番組名] 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」
[放送日] 2012年4月20日
[テーマ] 横這いから持ち直しに向かう県内景気

(キャスター) 『プラスオピニオン』のコーナーです。今週は、日本銀行前橋支店長の竹澤秀樹さんに、「横這いから持ち直しに向かう県内景気」というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(竹澤支店長) よろしくお願いします。

私どもでは今月初め、3月に実施した「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——の結果を公表しました。昨年の震災の痛手から回復を続けてきた県内景気ですが、今年に入ってから、足踏み状態を続けています。そうした中での調査でした。まずは「業況判断D.I.」をご覧ください。



(竹澤支店長) 業況が「良い」と回答した企業の比率から「悪い」と回答した企業の比率を引いたもので、「良い」と回答した企業が多いほど、数値は高くなります。青色の線が前橋支店管内の全産業の動きです。今回の3月調査では、震災からの回復過程では初めて、小幅ではありますが、悪化した形になっています。点線で示した全国のD.I.が緩やかながら改善を続けているのとは異なります。

(竹澤支店長) もっとも、グラフには示していませんが、非製造業のD.I.だけを取り出してみますと、むしろ改善しています。エコカー補助金が復活したことで、自動車販売が大変好調であることがその背景にあります。

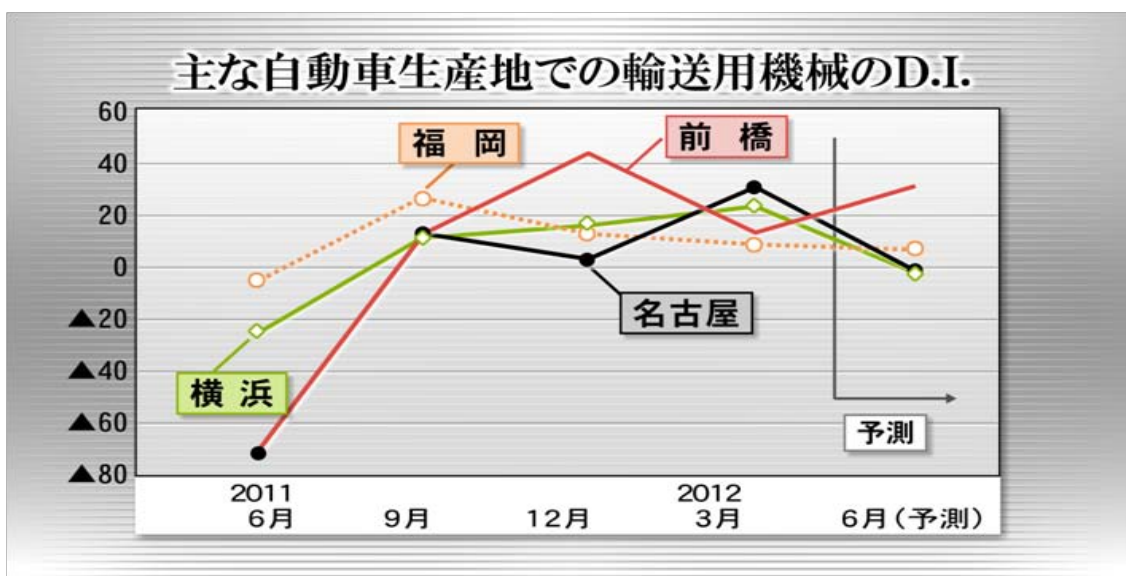
そうしますと、全産業のD.I.の悪化の要因は製造業にあるということになります。昨年12月の製造業のD.I.は、業況が「良い」と回答した企業の方が多いいことを示すプラスでしたが、今年3月には「悪い」と回答した企業の方が多いいことを示すマイナスになりました。

特に、電気機械の不振が目立っていて、D.I.は昨年12月には▲15と、そもそも低かったのですが、今年3月には▲32にまで落ち込んでいます。電気機械と申しますと、23年度決算見込みについて、例えばパナソニックが7,800億円の赤字、ソニーが5,200億円の赤字と公表しています。日本のIT関連製造業は、海外経済の成長率の低下、円高、新興国の追い上げによって、厳しい局面にありますが、県内もその例外ではないということです。

また、県内の主力製造業である輸送用機械のD.I.も、昨年12月には+43と大変高い水準にありましたが、今年3月には+13と下がりました。欧州市場での自動車の販売不振や昨年の円高を受けた納入先からのコストダウン要請が影響しています。

(キャスター) 自動車については、太田市近辺の工場が大変忙しくしていると聞きます。今のお話は意外な気もしますが、如何でしょうか。

(竹澤支店長) おっしゃる通り、挽回生産ですとか、新型車の販売好調を背景に、生産水準は上がっているのも不思議に思われるかもしれません。そこで次のフリップをご覧ください。



(竹澤支店長) こうしてみますと、赤い実線で示した前橋支店管内について、二つの特徴点をみてとることができます。

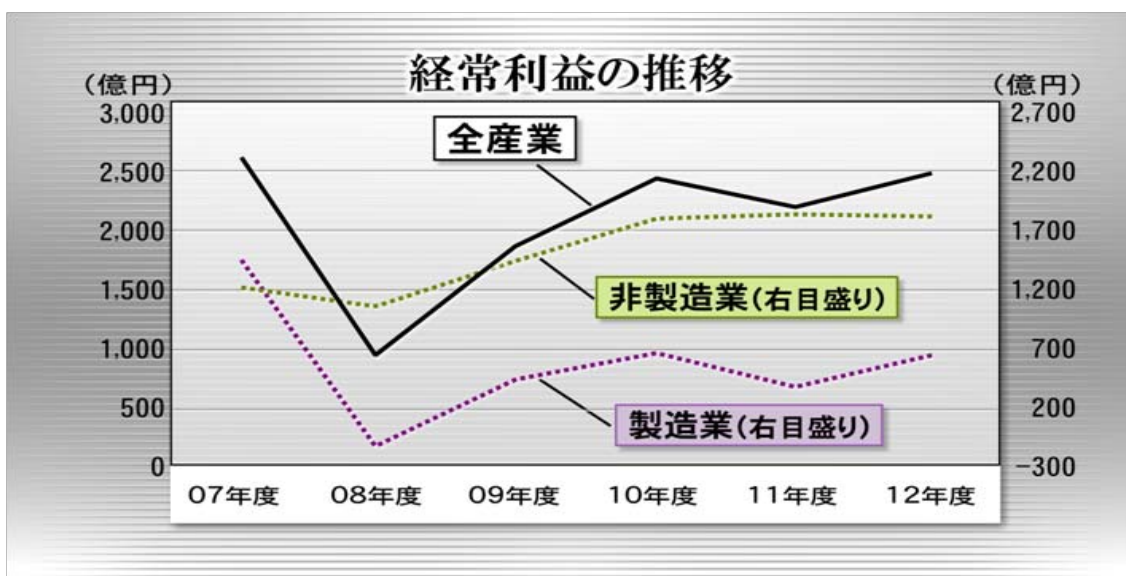
一つは、今回3月の落ち込みが目立つこと。もう一つは、先行き6月にかけて、前橋支店管内だけ大幅な改善が見込まれていることです。

こうした当地だけにみられるギクシャクした動きの背景には、3月がちょうど県内完成車メーカーが生産する車種の切り替え時期に当たっていたことがあります。新型車を作り始めたばかりは、サプライヤーを含めて作業に慣れていませんので、生産性や収益性は一時的に落ちます。作業に慣れるに従って収益は上がってきます。D.I.はそれを反映して一端落ちてまた上がるという形になっているのです。

ですので、今回、全産業のD.I.は下がりましたが、それをもって県内景気は悪化しているとまでみる必要はないと思います。横這いが続いていると考えております。

(キャスター) その他、今回の短観でわかったことはどんなことでしょうか。

(竹澤支店長) 2012年度、県内企業は増収増益を見込んでいることがわかりました。このうち、経常利益について、フリップでご覧いただきましょう。



(竹澤支店長) 黒色の線は、管内調査先の全産業の経常利益を示しています。2012年度については、2010年度の水準を僅かですが上回って、リーマンショック前である2007年度の水準に近づく計画となっています。

先ほど今回の短観でD.I.が悪化したと申し上げた製造業——紫色の点線で示しています——についても、同じ傾向がみてとれます。

(キャスター) 企業は今年度、業況の改善を予測しているということになりますね。

(竹澤支店長) その通りです。ただ、予想された通りに景気が展開していくとは限りません。そこで、今後のポイントを纏めてみました。

今後のポイント

- 海外需要の動向
- 復興需要の取り込み
- 高齢化・人口減少の中で
成長力の確保

(竹澤支店長) まず第一には、海外需要の動向です。今年、ヨーロッパは政府債務問題が尾を引きますので、景気の悪化は避けられないとみられています。他方でアメリカの景気は崩れていません。あとは中国の経済成長率が上がってくると、県内企業にとっては追い風が吹くことになります。そこが見通せるかどうかです。

第二には、震災復興需要の取り込みです。東北地方に新しく営業所を設けて受注の確保を目指す県内企業もみられます。そこまでしなくとも、各社それぞれの方法で復興需要を取り込むことができるかどうかです。

第三には、より中長期的な課題ですが、人口が高齢化・減少する中で、企業の成長力をいかに高めていくかということです。それには、変化を先取りして積極的に対応していくしかありません。将来を見据えた企業の前向きな取組みと、それを促す金融機関や行政のサポートが期待されるところです。

(キャスター) 今日は、「横這いから持ち直しに向かう県内景気」ということでお話をうかがいました。ありがとうございました。

以 上